衛生隊と野戦病院を統括した新しい「衛生隊」を規定する形で実現している。しかしながら、昭和十六年十二月、大東亜戦争が勃発したため、施行に至らず、多くの師団は従来の型で戦場に送られた。その後、昭和十八年以降の新師団創出にあたって、前述の案が色濃く滲んだ野戦機関が創出されるようになった。

㈠警備師団野戦病院

師団に一つの野戦病院で、後送・治療能力を有する。

㈡海洋師団野戦病院

師団に一個で、三個野戦病院(従来型)の能力を有する。

㈢　沿岸師団野戦病院

師団に一つで、従来型と大同小異の野戦病院である。

このように、異なる野戦病院が各種編成されたが、昭和二十年八月時点において、編成完了したもの、玉砕した病院、編成完結途中のものを含め、その総数は二九七野戦病院に及んだ。

(埼玉県所沢市)

京都における眼科流派と秘伝書

奥沢康正

江戸時代の眼科諸流派について、小川剣三郎『日本眼科学史』、福島義一『日本眼科全書(眼科史)』、中泉行正『明治前日本眼科史』、富士川游『富士川游著作集』並びに、『京都大学図書館富士川本目録』、『東京大学総合図書館古医学書目録』、『研医会図書館蔵書目録』ほかの資料から採集した六七流派について、各流派毎に始祖、主たる活躍地、秘伝書名、秘伝書所在地、寺院との関連の有無について調べた。とくにこのうち京都に関連の深いものについて述べる。

また、秘伝書については、徹底した秘密主義の時代から、時代の変遷とともに平易な文章表現の医学書に発展される手術法、治療法などにより、しだいに、派、流の独占する秘伝を維持できなくなる歴史の流れの中で、各流派の消長とそれぞれの秘伝書の特徴について考察する。

(京都府京都市)